

カペシタビン錠「日医工」による 治療を受ける方へ



[監修]

日本医科大学武蔵小杉病院

腫瘍内科教授 部長

外来化学療法室 室長

勝俣 範之 先生

目次

がんの治療について	3
カペシタビンについて	5
カペシタビンの服用スケジュール	7
カペシタビンの主な副作用	9
副作用の注意点	13

はじめに

カペシタビン錠「日医工」（以下、カペシタビン）は大腸がん、胃がん、乳がんの治療に用いられるお薬のひとつです。このお薬は内服で用いることができるので、ご自宅で治療に取り組むことができます。

そのため、カペシタビンによる治療を受けるにあたり、服用スケジュールや起こりやすい副作用などを、患者さんご自身やご家族がしっかりと理解することがとても大切です。

この小冊子ではカペシタビンの特徴や服用スケジュール、副作用や日常生活の注意点を解説しています。患者さんが治療に取り組むうえで不安を解消し、安心して治療を続けられることにお役立ていただきたいとの思いで作成いたしました。

少しでも気になることがあれば、主治医、看護師、薬剤師にご相談下さい。

がんの治療について

がんの治療には、「内視鏡治療」、「手術療法」、「化学療法」、「放射線療法」などがあります。

このうち化学療法は、抗がん剤を使った治療方法のことをいいます。化学療法では、抗がん剤が血流にのって全身に運ばれるので、広い範囲のがんの増殖を抑えるはたらきがあります。がんを化学療法を行う目的には、次の二つがあります。

①手術後の再発を抑える（術後補助化学療法）

手術によって目に見える全てのがんを切除できたとしても、目にみえないほど小さながんが残り、そこから再発する可能性があります。そこで、体内に残っているかもしれないがん細胞を攻撃するために化学療法を行います。この再発を抑える目的で行う化学療法を「術後補助化学療法」といいます。

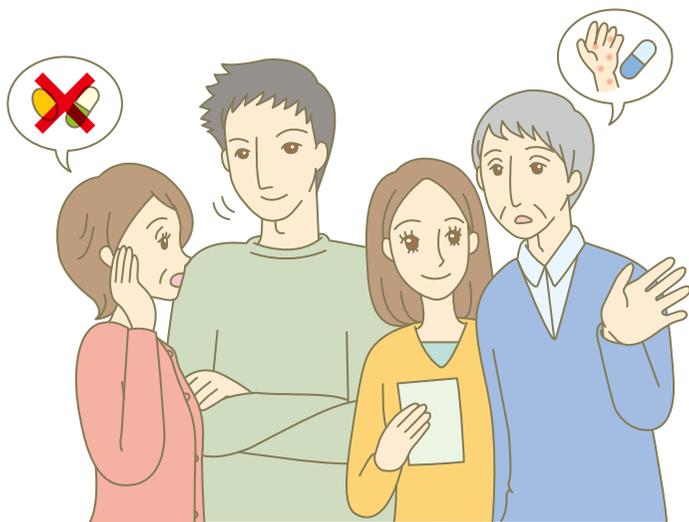
②手術で取りきれないがんの進行を抑える

手術で全てのがんを取りきることが難しい場合は、化学療法が行われます。がんを小さくしたり、がんが大きくなるスピードを抑えたりすることで、患者さんの生活の質を維持することが目的です。

副作用について

抗がん剤はがん細胞だけではなく、正常な細胞にも作用してしまうため、副作用があらわれる場合があります。副作用の症状や程度は個人差があり、抗がん剤の種類や組み合わせによっても異なります。

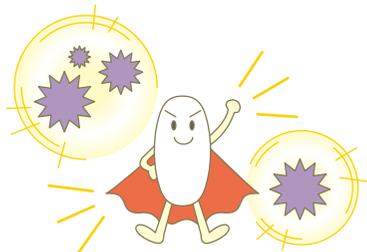
化学療法を効果的に実施するためには、患者さんやご家族の方が副作用を正しく理解することが大切です。



カペシタビンについて

カペシタビンは内服で用いることができる抗がん剤の一つです。

カペシタビンは、がん細胞に多く存在する酵素によって変化することで、細胞の増殖をおさえる作用が発揮されます。そのため、効率的にがん細胞を攻撃することができると考えられています。



カペシタビンによる治療を始めるにあたって

このお薬には一緒に服用してはいけないお薬や、注意が必要なお薬があります。次の方は必ず主治医または薬剤師にお伝えください。

- テガフル・ギメラシル・オテラシルカリウム配合剤（抗がん剤）を服用中、または服用中止後7日以内の方
- ワルファリンカリウム（血液を固まりにくくするお薬）、フェニトイン（てんかんのお薬）、トリフルリジン・チピラシル塩酸塩配合剤（抗がん剤）を服用中の方

次の方は必ず主治医または薬剤師にご相談ください。

- 以前にお薬を使用して、かゆみや発疹などのアレルギー症状が出たことのある方
- 腎臓に病気のある方
- 妊娠または妊娠している可能性のある方
- 肝臓に病気のある方
- 冠動脈疾患になったことのある方
- 骨髄抑制のある方
- 消化性潰瘍のある方、または消化管出血のある方

他のお薬との併用治療について

カペシタビンによる化学療法は、単独で用いるだけでなく、何種類かのお薬と併用することがあります。併用するお薬は内服薬だけでなく、注射薬の場合もあります。

併用されるお薬の投与方法やスケジュールもさまざまであるため、主治医の指示通りに治療に取り組むことが大切です。



カピシタビンの服用スケジュール

カピシタビンは決められたスケジュールで服用するお薬です。主治医に指示された通りに服用してください。

あなたの服用スケジュールに印をつけましょう。

1日2回（朝夕の食後30分以内）を**21日間（3週間）**続けて服用し、その後**7日間休薬**します。
これを1コースとして、繰り返し服用します。



1日2回（朝夕の食後30分以内）を**14日間（2週間）**続けて服用し、その後**7日間休薬**します。
これを1コースとして、繰り返し服用します。



1日2回（朝夕の食後30分以内）を**5日間**続けて服用し、その後**2日間休薬**します。
これを1コースとして、繰り返し服用します。



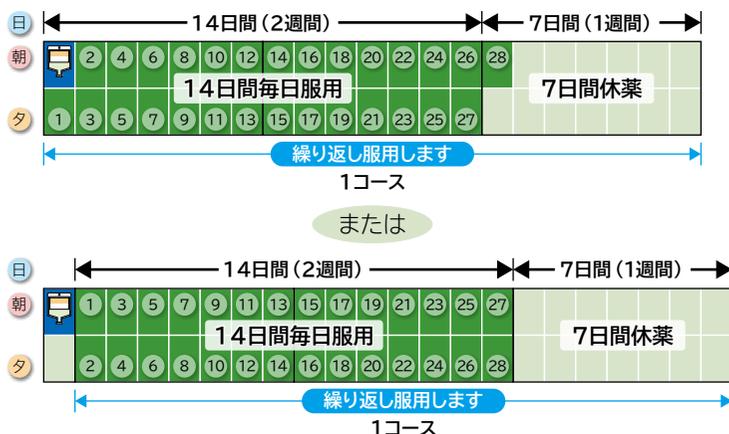
※標準的な治療スケジュールです。症状によって変更になる場合があります。

注射薬と併用する場合

注射薬を点滴した後で、カペシタビンの服用を開始します。

例 14日間服用，7日休薬の場合

1日目に注射剤を点滴します。カペシタビンは1日目の夕食後から15日目の朝食後まで14日間分（28回分）続けて服用し、その後7日間休薬します。これを1コースとして、繰り返します。1日目にカペシタビンの服用が難しい場合は、主治医と相談して、翌日の朝食後から服用をはじめます。



※標準的な治療スケジュールです。症状によって変更になる場合があります。

- 1日2回、朝・夕食後30分以内に、コップ一杯程度の水またはぬるま湯で服用してください。
- カペシタビンの服用する量は、治療の目的や体の大きさなどをもとに主治医によって決められます。自己判断で服用を中止したり、お薬の量を変えたりしないでください。
- 飲み忘れに気付いた時は、1回とばして、次の分から服用してください。決して一度に2回分を服用しないでください。
- 誤って多く服用した場合は、主治医または薬剤師にご相談ください。

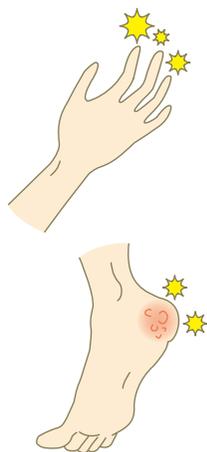
カペシタビンの主な副作用

● 手足症候群

抗がん剤によって手足の皮膚細胞が傷つけられることで起こる副作用を手足症候群といいます。

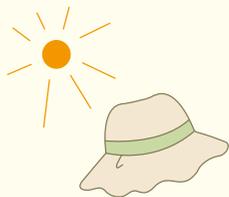
手の指先やかかたなどに症状が出やすく、初期にはチクチクまたはピリピリするような感覚や痛みを感じ、進行すると皮膚が赤く腫れたり、水ぶくれができることがあります。

治療を始めてから9～16週くらいまでに起きることが多く、休薬することで症状は軽くなります。



日常生活の注意点

- 長時間の歩行や立ち続けることは避けましょう。
- 柔らかい素材で足にあった靴や厚めの靴下などを使って、足を保護しましょう。
- 熱いお風呂やシャワーは控えましょう。
- 保湿剤を使って、皮膚を保護しましょう。
- 外出時には帽子、日傘、手袋などを使って直射日光に当たらないようにしましょう。



● 骨髄抑制

がん治療の副作用によって骨髄の働きが低下している状態をいいます。血液は、骨の中にある骨髄でつくられています。この骨髄が抗がん剤の影響を受けると、血液細胞をつくる機能が低下し白血球・赤血球・血小板が減少し、貧血などが起こります。

白血球 減少

白血球の数が少なくなると、病原菌（細菌）に対する体の抵抗力が弱くなり、いろいろな部位（口、肺、皮膚、尿路、腸、肛門、性器など）で感染症を起こす可能性があります。

貧血

赤血球の数が少なくなると、貧血症状を感じる場合があります。

出血

出血を止める作用がある血小板が少なくなると、容易に出血しやすく、また出血が止まりにくくなります。

日常生活の注意点

- 手洗い（食事の前、トイレの前と後、外出から帰ってきたとき）をしっかり行い予防に努めましょう。
- 激しい動作やスポーツは避けてください。また転倒や外傷、打撲に注意しましょう。爪は短く切り、皮膚に傷をつくらないようにするなどの工夫も効果的です。

カペシタビンの主な副作用

消化器症状

吐き気、おう吐、下痢、口内炎などの消化器症状がおこる場合があります。おう吐や下痢は治療開始から数日後にあらわれる場合もあり、脱水症状に至ることもあります。

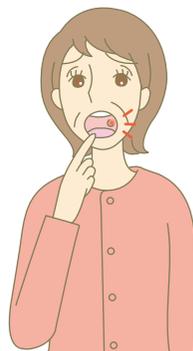
口内炎は抗がん剤が口の中の粘膜に作用したり、細菌感染したりすることで起こります。カペシタビンの服用後、数日から10日目ごろに発生しやすく、口の中の痛み、熱いものや冷たいものがしみる、口が動かしにくい、味が変わる、などの症状があります。



吐き気、おう吐



下痢



口内炎

日常生活の注意点

- 無理せずに食べられるものを探し、食事はゆっくりと時間をかけたり、少量ずつ可能な範囲で食べるとよいでしょう。
- 十分な水分補給を心がけてください。冷たすぎる飲み物は避けましょう。



- 必要に応じてうがい薬でこまめにうがいをしたり、食後あるいは寝る前にうがいをし、歯磨きなどで口のなかを清潔にするとよいでしょう。



副作用の注意点

次の症状に気が付いたら、主治医に連絡してください。



38℃以上の
発熱



激しい下痢、水のような便、
頻回の軟便



吐き気が続く、
頻回の嘔吐

次の症状に気が付いたら、受診時に主治医にお知らせください。

- 手のひらや足の裏の感覚が鈍くなる、過敏になる、赤くはれる、痛み



- しゃべりにくい、まひやしびれが出る



- 動悸、胸がしめつけられる感じ、息苦しい



- 口内炎



- 皮膚が黄色くなる



- 尿の量が減る、尿の色が濃くなる



- 血が止まりにくい



- 中央にむくみを伴った赤い斑点、赤い発疹



これら以外にも気になることがございましたら、主治医または薬剤師にご相談ください。

医療機関名